

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 8月 24日

氏名 (フリガナ)	三嶋拓也 (ミカモタクヤ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	岐阜大学
学年	5年

はじめに、医学部夏期集中医学英語研修プログラムに関わってくださった全ての方にこの場を借りて感謝申し上げます。私は本プログラムの存在を学務の掲示板で拝見したのですが、参加するかどうか募集締切の前日まで悩みました。なぜなら私は旅行を含め海外経験がなかったこともあり英語を自分から発信することに自信がなく、このような状態で参加させていただいても何もできずに終わってしまうのではないかという不安があったからです。しかし、私は6年次の選択院外実習でオーストラリアでの研修を予定しておりそれまでに英語能力の向上が不可欠である点、USMLE受験に対するモチベーションを上げる点、そして何よりJohn A. Burns School of Medicine(JABSOM)の学生からHistory Takingを行い現地で実際に働かされている医師の方々に対してCase Presentationを行うという日本にいる限り絶対にできない素晴らしいプログラムがある点に惹かれ今回本プログラムに参加することを決意しました。

実際に参加してみた当初、参加者は自分よりも遥かにモチベーションの高い人ばかりで圧倒されました。英語が堪能な帰国子女の学生に加えて、帰国子女でなくても自分の意見を英語で迅速に表現できる学生ばかりで非常に衝撃的であるとともにこの先やっていけないのではないかという不安に駆り立てられました。ルームメイトにそのことを話したところ、「そもそもスタートラインが違うのだからそれを比較し悩み過ぎる必要はあまりないのではないか」と言ってくれ、その助言のおかげで自分には自分なりの課題があってそれを克服していけばいいのだと前向きに考えられるようになりました。

本プログラムは午前中にMedical English I、Medical English II、Medical Ethicsの3つの講義があり、昼から夕方にかけてJABSOM、St.Lukes Clinic、Kuakini Health Systemの内部を見学し、夜はJABSOMでHistory TakingとCase Presentationのトレーニングをするという非常に濃密なスケジュールで構成されています。Medical English I・IIではHistory Takingについて学んだ後に前日のCase Presentationを皆の前で発表するトレーニングを行いました。これは全てのことに言えることですが、History TakingやCase Presentationも頭の中では理解していたとしても実際に相手に伝えるとなると上手にできないのだと痛感しました。Medical Ethicsでは毎日異なるトピックのビデオを見て自分はどう思うのか小グループでディスカッションしました。私は性格上、誤った意見を言うのを恐れて自分の意見が固まってからでない意見を述べないことが多いので、自分の意見が固まる前にディスカッションが進行してしまい全然参加できずに終わってしまい非常に落ち込んだ日がありました。そんなときも同じ小グループのメンバーが支えてくれました。Medical Ethicsの講義を通して、例え自分の意見が頭の中にあっても相手に伝わらなければ何も考えてないに等しいというのを身を以て体験する機会となりました。そして、私が最も本プログラムに参加した最大の要因であるJABSOMでのHistory TakingとCase Presentationのトレーニングは期待以上のものでした。まず初めに系統的なHistory TakingとCase Presentationの仕方の説明があつてから、実際にJABSOMの学生からHistory Takingを行い現地で実際に働かされている医師の方々に対してCase Presentationを行うトレーニングを3日かけて行いました。私は以前大学でHistory Takingの練習を数回したことがありましたが、鑑別診断を意識して聴取してはいなかったためReview of Systemの重要性を感じました。また聴取においてどの表現が適切なのか具体例を提示していただけたのも大変勉強になりました。Case Presentationの仕方では医師の実力がわかると言われていますが、初めは情報の羅列になってしまっていて理想的なCase Presentationとは全くかけ離れたものでした。しかし、医師の方々

や JABSOM の学生に懇切丁寧に指導していただいたおかげで少しずつ必要な情報を抽出してコンパクトに要約できるようになってきました。History Taking や Case Presentation といった全てのトレーニングは試行錯誤しながら練習を積み重ねれば積み重ねる程上達していくものだと感じたため今後も継続してトレーニングしていきたいと思いました。

本プログラムを振り返ってみると自分の無力さに苦悩することが何度もありましたが、その度に成長できるチャンスだと思って愚直に取り組み、日に日に成長を実感することができました。その際に仲間に何度も助けられ感謝しきれません。本プログラムの参加者は全国津々浦々から集まった意欲のある学生たちばかりであり刺激に溢れた日々であったため、また全国に散ってしまうのが非常に残念です。私の目標とする学生を参加者の中に見つけることができたため、自分も少しずつ近づけていけるように努力したいと強く思いました。このような仲間に大学生という時期に出会えたのは私にとってかけがえのない経験となり、お互い成長した姿でまたいつか出会えることを楽しみに今後も何事にも積極的に取り組んでいこうと考えています。

最後に繰り返しになりますが本プログラムに関わった全ての方に感謝申し上げて研修報告書とさせていただきます。ありがとうございました。

